「考古学は、遺跡から過去の歴史を読み解く学問である」

研究室紹介

文学部 文化財学科

AIHARA　Yoshiyuki
相原　嘉之 准教授

1967年、大阪市生まれ。1990年、奈良大学文学部文化財学科卒業。大学時代の4年間は、奈良市で平城京内の発掘調査に参加する。卒業後、奈良国立文化財研究所で飛鳥・藤原宮跡の調査に従事する。その後、滋賀県文化財保護協会を経て、1993年からは明日香村教育委員会で発掘調査と文化財保護に関わる。2018年には奈良大学で博士号(文学)を取得。2020年4月から現職。専門は日本考古学、文化財学。著書は『飛鳥・藤原の宮都を語る』(単著、吉川弘文館)、『古代飛鳥の都市構造』(単著、吉川弘文館)、『飛鳥と斑鳩』(共著、ナカニシヤ出版)など。

相原嘉之准教授は30年にわたり、発掘調査と文化財保護に携わってきました。明日香村教育委員会では、キトラ古墳・高松塚古墳の調査や保存に参画し、遺跡保護・整備・文化的景観・日本遺産・世界遺産登録推進の業務にも関わりました。昨年4月、母校に着任し、飛鳥・奈良時代の宮殿や都の研究を進めています。また、現地に立って、触れて、感じる学びを大切にしながら、考古学、文化財学の教育・指導と人材育成に取り組んでいます。

再び、奈良大学へ

私が奈良大学の門を初めて潜ったのは、35年前でした。当時は阪奈道路に近い宝来(ほうらい)キャンパスで、3年生になる時に、現在の山陵(みささぎ)キャンパスに移ってきました。学生時代は、授業にも出ず？、平城京の発掘調査に勤しんでいました。そのこともあり、卒業論文は平城京の市についてをテーマとしました。卒業後、水野正好先生の紹介で、奈良国立文化財研究所で飛鳥藤原地域の調査に参画し、その後は滋賀県を経て、明日香村で長く発掘調査・文化財保護の仕事を続けています。そして昨春、縁あって、再び奈良大学の門を潜ることになったのです。今度は、教員として・・・。

「日本国」誕生の歴史を探る

私の研究テーマは、「王宮・王都からみた律令国家の成立過程」です。これまでに平城京や難波宮・藤原京、そして飛鳥地域の宮殿や都城の調査研究をしてきました。飛鳥の都はどのような姿だったのか？100年の間にどのように造られてきたのか？

それには飛鳥そのものを調べる方法と、次の藤原京・平城京と比較しながら調べる方法があります。また、寺院や古墳など、多角的に検討することも求められます。この飛鳥の宮都の成立過程を調べることは、天皇がどのような思想で都を造ろうとしたのか、律令国家がどのようにできあがってきたのかを知ることでもあります。つまり「日本国」誕生の歴史を解き明かすことになるのです。

奈良で学ぶ「文化財学」の魅力

よく奈良県民は、子供の頃に古墳が遊び場だったとか、街中にある神社や寺院が国宝・重要文化財だったと言います。それだけ身近に文化財が溢れており、生活の中に溶け込んでいるのです。しかし、街中を少し違った視点で見てみると、奈良の街は文化財の研究対象には事欠きません。古代の都があった平城京、日本国が誕生した飛鳥・藤原、統一国家のできた頃の墳墓であるオオヤマト古墳群など。また、高取城や郡山城などの城郭、大仏殿や奈良町などの建造物群、さらに多くの絵画・仏像などの文化財があります。これらを研究対象とするのが文化財学です。そして、この文化財を保護・活用し、次世代に継承することも、文化財研究の大きな役割と考えています。

受験生へのメッセージ

奈良は遺跡や文化財の宝庫です。これらの文化財は単体で存在するのではありません。その文化財だけでなく、文化財を取り巻く環境も含めて、歴史的文化遺産になるのです。文化財研究の第一歩は、現地に立って、触れて、感じることです。それができるのが、奈良大学文化財学科の強みと思っています。

ならぶVol.187 ●発行:令和3年5月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山陵町1500 TEL 0742-44-1251(代) URL http://www.nara-u.ac.jp/ E-mail kouhou@aogaki.nara-u.ac.jp ●編集:奈良大学広報室

ならぶ

Na Love

Nara University Bulletin Vol.187

奈良大学
NARA UNIVERSITY

社会とつながる

奈良の地で、本物を“見る、触れる、聞く、感じる”「生きた学問」に取り組み、実社会で役に立つ力を培っている学生たち。
地域や企業と連携したさまざまな活動を通して、大学での学びが社会につながっていることを実感しながら、学びを深めています。

本学は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止し、学生・教職員の安全を確保しつつ教育研究活動等を実施しています。連携活動につきましても、適切な感染予防対策を取った上で実施しました。

高大連携

フィールドワーク実施支援ツールの作成

文学部地理学科　木村　圭司 教授
（地理学、気候学、GIS、リモートセンシング）

2022年より高等学校で「地理総合」が必修科目となります。出前授業などを通して、高等学校の先生方から「地理を専門とする先生が少ない」「フィールドワーク（現地調査）をどうやればよいか」といったご相談をいただきました。何かお手伝いできないかと考え、フィールドワークの教育支援ツールを学生主体で制作することにしました。

学生たちと話をする中で、高校周辺でフィールドワークを行い、経路や調査（観察）対象を提案する資料を作って授業で活用してもらおうということになりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が県内に限定されることから、奈良県の国公立高校34校（分校を除く）でフィールドワークを実施することにしました。

現在、高校の教員志望の團栗裕貴さんを中心としたチームで活動を進め、3月までに16校のフィールドワークを完了しています。資料は今年度中の完成を目指しており、フィールドワーク実施支援ツールとして県内高校の地理歴史の先生の勉強会で使用していただく予定です。

最後に、フィールドワークにご参加・ご協力いただきました、奈良県立郡山高等学校土居校長先生、枝先生、同奈良北高等学校植田先生、奈良市立一条高等学校出羽先生に感謝申し上げます。

※ GIS（Geographic Information System：地理情報システム）

地形について説明する木村教授（右）とメモを取る團栗さん（左）

奈良北高等学校の正門前でフィールドワーク前のミーティング

文学部地理学科 4年（当時3年）　團栗　裕貴 さん

高校の先生にすぐに使ってもらえるように、奈良県内の国公立高校（分校を除く）34校を対象としました。2単位時間の授業を使って2時間程度のフィールドワークを行えるように、資料では学校を起着点とした経路と観察対象を紹介します。

各学校の周辺には、特徴的な観察対象が必ずあります。断層など大きな特徴もあれば、電柱に取り付けられた地名・番号のプレートなど、説明を受けて初めてなるほどと思う特徴もあります。観察対象は、事前に地図などで調べ、実際にフィールドワークで確認します。資料では、6つ程度の観察対象を挙げて、特徴や歴史などの説明文をつけています。また、学生チームが撮影した写真を載せ、視覚的にわかりやすくしています。1つ目の事例を資料にまとめている時には、この写真はもっとアップがよかったとか、こういう写真の方がわかりやすいなど、改善すべき点に気づき、独りで再訪して撮影し直しました。その反省から、いろいろなことを想定して写真撮影を行うようにし、再訪の難しい学校では、チーム全員で写真を撮りまくりました。

資料が出来上がったら、高校の先生にぜひ活用してもらいたいです。また、私達よりその土地に詳しく、いろいろなことを知っている先生方に、資料をどんどん改良してもらえたらと思います。そして、高校生がフィールドワークを通して、災害について考えたり、新しい気づきを得たりして、地理学を楽しんでもらいたいと思います。

地質を確認する木村教授（右）と記録写真を撮る團栗さん（左手前）

電柱のプレートの観察

文学部地理学科 2年（当時1年）　森友　陽喬 さん

恩師である奈良北高校の植田先生も参加されるということで、母校周辺のフィールドワークに誘ってもらったことが参加のきっかけです。地元ということで、いつも通る道や知っている場所を巡りましたが、地理的な視点で見るという体験は初めてで、見慣れた風景がとても新鮮に感じられて楽しかったです。

フィールドワークに参加したり、GISを使ったり、初めてのこと、新しいことがたくさんあって、初めは戸惑いましたが、今はとても楽しいです。難しいかもしれないと思うことも、興味を持って取り組めば頑張れると気づくことができました。

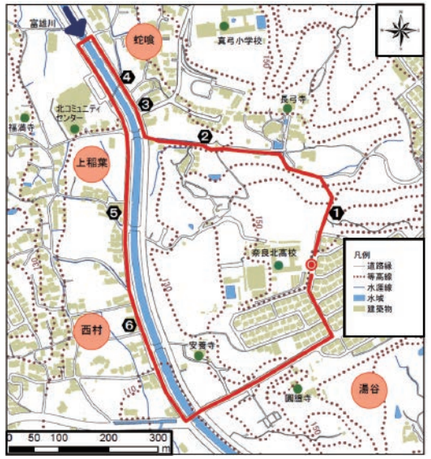
周辺について説明する森友さん（奥）

文学部地理学科 2年（当時1年）　牧田　ことみ さん

資料の制作で、経路などを示すGISを使ったデジタル地図の作成を担当しています。GISの使い方は、地理学科の学生の自主勉強会で学びました。

デジタル地図はカスタマイズできるのが魅力です。対象者の年齢に合わせた表示にすることもできます。地理学科で学んでいると、地図に慣れてしまい、ついつい地図に情報を盛り込みすぎてしまうので、高校生が見てわかりやすいように、作成することを心掛けています。

記録写真を撮る牧田さん（手前）



奈良北高校フィールドワークマップ（牧田さん作成）

鳥居のすぐ横は土砂災害特別警戒区域

植生の確認

ラバーダム（ゴム堰）について説明する團栗さん

Contents

1 社会とつながる
7 クローズアップ
11 トピックス
12 活躍する卒業生
13 インフォメーション
15 研究室紹介
文学部 文化財学科
相原 嘉之 准教授

地域連携

埋蔵文化財の発掘調査

甲塚古墳（奈良県生駒郡斑鳩町）

斑鳩町教育委員会と連携

聖徳太子ゆかりの奈良県・斑鳩町との連携協定のもと、2013年より斑鳩町教育委員会と共同で古墳調査を実施しています。豊島直博教授が学生を募り、毎年夏期休業期間に測量調査、春期休業期間に発掘調査を行っています。

2021年は2月16日～3月11日に甲塚古墳の第4次調査（発掘調査）を実施し、3月15日～31日は大学で斑鳩大塚古墳と甲塚古墳の遺物整理を行いました。

※調査区は、遺跡保存のため調査終了後に埋め戻しを行いました。

実施年	発掘調査（3月頃）	測量調査（8月頃）
2013	ー	斑鳩大塚古墳
2014	斑鳩大塚古墳（第1次）	寺山古墳群
2015	斑鳩大塚古墳（第2次）	寺山古墳群
2016	斑鳩大塚古墳（第3次）	**甲塚／亀塚**
2017	斑鳩大塚古墳（第4次）	戸垣山古墳
2018	**甲塚古墳（第1次）**	梵天山古墳群
2019	**甲塚古墳（第2次）**	神代古墳
2020	**甲塚古墳（第3次）**	（中止）
2021	**甲塚古墳（第4次）**	（計画中）

円墳の大きさを推定するため、
墳頂から墳丘の裾までの長さを測定

第13調査区の調査風景

甲塚古墳発掘調査担当者：

文学部文化財学科　豊島　直博 教授（日本考古学）

甲塚古墳の近くには、国内で唯一の例である琥珀製の枕などの副葬品が出土した竜田御坊山（たつたごぼうやま）3号墳や、国宝に指定された金銅製馬具などの豪華な副葬品で有名な藤ノ木古墳（ふじのきこふん）があります。恵まれた立地から、当初、6世紀後半頃に作られた有力者の墓では、との期待が高まりました。

2016年の測量調査で直径約30mの円墳であると推定、2018年の第1次発掘調査で人工の盛り土を確認しました。2019年の第2次調査では埋葬施設を確認し、銅鏡が出土しました。埋葬施設は、古墳頂上に木の棺を埋める、4世紀から5世紀に見られるもので、鏡は鏡背の文様構成から、古墳時代中期（５世紀）に製作されたものと推定されました。これにより、甲塚古墳は、5世紀頃に造営されたことが確定しました。昨年の第3次調査と今回の第4次調査は古墳の製造年代と大きさ、形を探る調査を行いました。甲塚古墳の発掘調査は今回で終了です。これまでの調査から、造営年代、埋葬者は当初の予想と異なり、5世紀頃に地域の有力者が埋葬されたものと考えられます。遺跡は掘ってみないとわかりません。そこが面白いところでもあります。

第15調査区の掘削の様子

出土した遺物の実測図を作成

大学院　文学研究科　文化財史料学専攻 2年（当時1年）　松島　隆介 さん

目的を持って調査を行うことが、発掘調査の楽しさの大きな要素だと思います。毎回、丁寧に調査をして、ひとつでも多くのことがわかるように、という思いで発掘調査を進めています。

斑鳩での発掘調査は、上級生がリーダーとなり、参加者全員で協力して進めました。豊島先生にアドバイスをいただくこともありますが、基本的にはまずリーダーが自分たちで考えました。今年は、私を含めた大学院生の同期3人と、4月から大学院生となる学生1人がリーダーを務めました。

今回、1つの調査区（第13調査区）を広く開けていたので、4人で分担して調査を行いました。各自の考え方で作業を進め、ひとつにまとめる段階ではリーダー全員でよく話し合い、次の作業内容を決めました。また、下級生には、他の現場で発掘を経験している人には、ある程度任せて、自分で考えて掘ってもらい、初めての人は、楽しくかつ勉強になるように、できるだけいろいろな作業をしてもらいました。リーダーとして調査を進めた経験は、大変でしたが、得るものがたくさんあったと思います。

文学部文化財学科 3年（当時2年）　郷田　美宇 さん

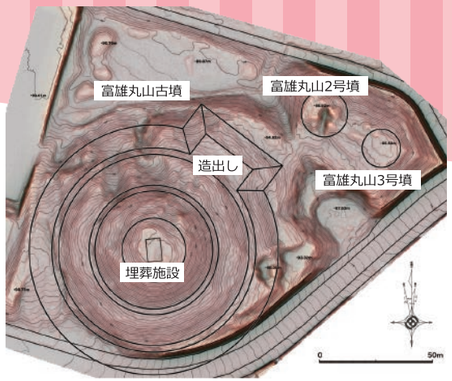
甲塚が初めての古墳発掘調査でした。これまで、奈良県立橿原考古学研究所が行っている、道路建設に伴う発掘や遺跡の発掘に参加しましたが、どれも平面だったので、急斜面の現場は初めてで、新しい気づきがたくさんありました。たとえば、図面を書くための基準となる水糸を張る作業は、平面では直線ですが、斜面では階段状に張ります。土を掘る道具の使い方も平面とは異なります。現場に合わせた方法や技術を知り、とても勉強になりました。

富雄丸山古墳（奈良県奈良市）

奈良市教育委員会と連携

奈良市との連携協定に基づいて、奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターが行っている富雄丸山古墳の調査に、文学部文化財学科の学生と大学院文学研究科文化財史料学専攻の大学院生が参加しています。

2020年12月21日～2021年2月19日に行われた第4次調査には、10人の本学学生・大学院生が参加しました。



航空レーザーで計測した富雄丸山古墳の赤色立体地図
（奈良市教育委員会提供）

1972年に宅地造成に伴う発掘調査を奈良県教育委員会が実施し、墳頂部に粘土槨（埋葬施設）のある大型円墳だということがわかりました。

奈良市教育委員会では、2017年度に航空レーザ測量（第1次調査）、2018年度から5年計画で発掘調査を行っています。第1次調査、第2次調査（2018年度発掘調査）では、直径109mの造出（つくりだ）し付円墳であることがわかりました。今回の第4次調査では、古墳の範囲と構造を確認する調査が行われ、造出し部分の構造と裾にあたる部分が確認されました。（参考：奈良市教育委員会発行資料）

ドローンによる撮影準備のための掃除

大学院　文学研究科　文化財史料学専攻 2年（当時1年）　山本　美喜 さん

奈良大学の大学院を選んだ理由は、発掘調査の現場が充実しているからです。

入学後に、富雄丸山古墳の発掘があることを知り、古墳に興味があったこと、日本最大の円墳ということに興味を持ち参加しました。

今回の調査では、円筒埴輪列の並び方や、墳丘と造出しの構造がわかり勉強になりました。

発掘調査では、発掘技術をはじめ、さまざまなことを学び、吸収することができ、大きな充実感があります。

また、東京大学、筑波大学、法政大学の大学院生も調査に参加しているので、情報交換をしたり、よい刺激になっています。

2021年3月　文学部文化財学科　卒業（当時4年） 大阪府教育庁／文化財専門職　中川　恋歌 さん

富雄丸山古墳は、古墳の形をなぞるように配置された埴輪列がしっかり残っていることが見どころです。発掘調査では、実際に土器や埴輪の破片、基底石や葺石を掘り出すことができ、楽しみながら学ぶことができました。

大学卒業後は、文化財専門職として大阪府教育庁で働きます。これまでは学生の立場で、奈良市教育委員会の方の指示のもと、調査を行っていましたが、これからは、私自身が他の人に指示を出す立場になり、現場の全体を見て、調査を進めていかなくてはなりません。現場で培った知識や技術、また協働力を活かして頑張りたいと思います。

地域連携

山添村古文書調査

山添村教育委員会と連携

2015年から山添村と学術連携し、春と秋の年に2回、山添村教育委員会のご協力のもと、史学科教員と学生有志による史学科研究チームが、山添村の神社や旧家に伝わる史料の調査を行っています。

文学部史学科　村上　紀夫 教授（日本文化史）

3月8日(月)、9日(火)に山添村生涯学習施設　東豊館で、広代村向井家文書と勝原村下浦家文書の整理を進めました。調査には、史学科教員6人(井岡康時教授、河内将芳教授、木下光生教授、外岡慎一郎教授、村上紀夫教授、森川正則准教授)と、有志学生延べ20人(各日10人)が参加しました。例年は1泊2日ですが、13回目となる今回は、新型コロナウイルス感染予防のため日帰りの調査となりました。また、人数を従来の半数程度に減らして3密を防ぐなど、感染対策を充分に施した上で実施しました。

広代の向井家文書では、「若柳」と書かれた化粧まわしなどがありました。勝原の下浦家文書では、近世後期から近現代にかけての多岐にわたる史料や、江戸時代から近代にかけて描かれた絵画の掛け軸などを確認しました。

「若柳」と書かれた化粧まわし
[広代村 向井家文書]

また、大和国宇陀郡福地村に陣屋を構えた旗本織田氏が発行する銀札が、46枚もまとまって残っていました。こうした銀札・銭札とともに、慶応3(1867)年2月に勝原村多蔵が「御銀札会所」宛てに、金１両につき「銀札六拾四匁」というレートで金「三百両」分の「請札」を願い出ている文書もありました。銀札・銭札が広く流通していくにあたっては、こうした家が拠点になっていたことがわかります。

調査は、原則として史料1点ごとに番号を与え、史料名・作成者・宛名・形状などをカードに記入して整理を進め、調査とともに保存のために中性紙の箱に史料を移し替えていきました。広代村向井家文書 箱４(13点)、箱5(11点)、箱６(化粧まわし)、勝原村下浦家文書 箱６(122点)、箱７(55点)、箱８(83 点)、箱９(13点)、箱10(64点、作業途中)で作成カードは計362枚となりました。

銀札（上）と文書（下）
[勝原村 下浦家文書]

文学部史学科 3年（当時2年）　曽根　優二 さん

明治時代の子どもたちが実際に使っていた教科書を中心に調査をしました。学んでいる内容が、昔も今もあまり変わらないことに驚きました。

史学科の基本中の基本である史料調査を初めて体験し、実物の史料に触れることができたり、くずし字を学べたことはもちろん、歴史の時間に学んだ昔の人々の暮らしを、調査を通して自分の目で確かめ、実感を伴って理解できたように思います。今後もこのような経験を積み重ねて、学びを深めていきたいと思います。

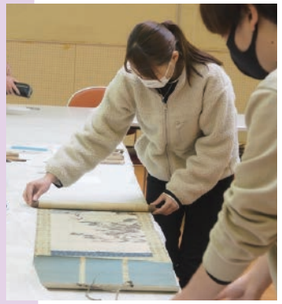
カードに記入する曽根さん

文学部史学科 3年（当時2年）　櫻井　裕梨 さん

くずし字を学んで実家の古文書を読むということが、史学科に入った目的の1つでした。今回初めて調査に参加し、辞書を手にくずし字に取り組みました。また、調査の合間に村を見学し、村上先生から、村の風習について話を伺うこともできました。

調査の中で木下先生がおっしゃった「史料は世界に一つしかないオリジナル」という言葉がとても印象的で、史料を現地で調査できることがとても貴重な体験だと、改めて感じました。先生方から解説いただいた内容や学んだことを、これから深く掘り下げていきたいと思います。そして史料からできるだけいろいろなことを自分の力で引きだせるように、くずし字をしっかり勉強しようと思います。

掛軸を調べる櫻井さん（写真左）



企業連携

総合社会学科体験実習

社会体験実習（必修科目）で企業やNPO法人等と連携

総合社会学科2年次の社会体験実習では、企業やNPO法人等と連携した活動を行います。

令和2(2020)年度 研修先

担当教員	研修先
尾上 正人 教授	ヴァンパイア株式会社
	共同精版印刷株式会社
中原 洪二郎 教授	スペシャルオリンピックス日本・奈良
	社会福祉法人　あゆみの会
	K-Pool　Projectノやなぎまち商店街
領内　修　教授	絵図屋（株式会社明新社）
	奈良工業高等専門学校 ロボコンプロジェクト
中坊 勇太 講師	KCN（近鉄ケーブルネットワーク株式会社）

奈良県庁 文化・教育記者室での記者発表の様子

絵図屋プロジェクト担当教員：
社会学部総合社会学科　領内　修 教授（企業財政）

令和2年度の社会体験実習は、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動が制限される中での実施となりました。絵図屋プロジェクトは、当初、株式会社明新社が事業展開している土産物屋

絵図屋での体験実習を予定していましたが、学外での実習が困難なことから、同店で販売するコラボレーション商品の開発と販促企画を行うことにしました。

2年生(当時)14人と先輩ボランティア3人が3つのチームに分かれて活動し、「ならンプ(トランプ)」「マスクケース」「トートバッグ」の3つの商品を世に出すことができました。2月4日には、明新社による記者発表に各チームの代表が出席し、商品のPRを行いました。

社会学部総合社会学科 3年（当時2年）　山口　直也 さん

私達が企画したのは、奈良の魅力を伝えながら、子どもから高齢の方までが楽しく遊べるユニバーサルデザインのトランプです。

使用しているイラストは、絵図屋さんの奈良ひとまち百景です。2枚のカードを組み合わせて1枚のイラストが完成するので、イラストを使った「神経衰弱」ゲームもできます。27枚のイラストは、みんなが知っている場所や、こんな所もあるんだよとおすすめしたい景色を選びました。54枚のカードには、私たちが考えた名所の紹介コメントをつけています。

ならンプで遊んで、家族みんなでおうち時間を楽しんだり、奈良の名所や自然風景のイラストを見て、「ここ行ったなぁ」「次はここに行きたいなぁ」と過去や未来の旅行に思いをはせてもらえたら、と思います。

ならンプ　チーム

ならンプ
―古都と自然を巡る―

社会学部総合社会学科 3年（当時2年）　岡嶋　美咲 さん

奈良の鹿と天川村から連想した天ノ川のイラストのマスクケースを企画しました。デザインは、「奈良のお土産」にふさわしく、清潔感があり、幅広い年齢層に使用してもらえるものを目指して検討を重ねました。ぜひ皆さんに使ってもらいたいです。

活動では、宣伝用のチラシやポスターも制作しました。商品の特徴やイメージをわかりやすく伝えることが難しかったですが、みんなで工夫して完成させました。

マスクケース　チーム

天ノ川・抗菌
マスクケース

社会学部総合社会学科 3年（当時2年）　森脇　悠太 さん

大学生の使い勝手を重視したトートバッグを企画しました。長さ調節のできるショルダーストラップが特徴のひとつで、自分好みの長さで斜めがけができます。

リーダーとしてグループの意見をまとめたり、記者発表で商品説明をしたり、活動を通していろいろな経験をする中で、プレゼンやディスカッションの能力が鍛えられました。また、商品を作る楽しさを感じることができたので、これから社会体験実習に取り組む人にも、楽しいと思える体験をしてほしいと思います。

トートバッグ　チーム

学生が考えた学生の
ためのトートバッグ

商品は絵図屋で販売中です。また、絵図屋オンラインショップでも購入できます。絵図屋オンラインショップURL　http://www.ezuya.jp/

■ クローズアップ①特別研究

奈良に関する資料のデジタルアーカイブの構築と活用

資料を確認する光石教授（左）と郡司さん（右）

学科を横断した特別研究のプロジェクトとして、奈良大学図書館所蔵の奈良に関する資料をデジタルデータ化する取り組みを、2019年度からの3年計画で進めています。

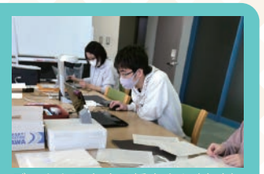
2020年度は、光石亜由美教授を責任者として木田隆文教授、中尾和昇准教授ら国文学科教員と学生10人が参加しました。学生たちは、貴重資料を中心に、スキャナによる撮影、データベース化などを行い、保存が必要な資料については保存処理を施しました。9日間の活動は、密にならないように、3交代のシフトを組んで2~3人ずつで行うなど、新型コロナウイルス感染防止対策を施して実施しました。

文学部国文学科　光石　亜由美 教授（日本近代文学）

奈良大学図書館にはさまざまな貴重な資料が収蔵されています。本プロジェクトの目的は、普段、手に取って見ることのできない和本や古写真、古地図などの資料を、画像データのかたちで保存し、公開するものです。いわば、資料の「見える化」です。特別研究の完成年度である今年度末には、図書館展示などで撮影した資料を公開する予定です。

資料の撮影（画像読み込み）

文学部国文学科2年（当時1年）
橋本　拓樹 さん



データを入力する橋本さん（中央）

図書館司書を目指していて、将来の自分の仕事になるかもしれないデジタルアーカイブを体験できると思い、参加しました。パソコンを使った作業が中心でしたが、古くて貴重な本を扱うので、壊してしまわないかととても緊張し、丁寧に扱うよう心掛けました。カラフルな本も多く、今の時代でも通用する装丁など、見ていて飽きませんでした。資料整理をしながら、製本の種類や、修繕の方法など、本に関する話を先生から伺うこともでき、とても勉強になりました。

文学部国文学科4年（当時3年）
郡司　怜緒菜 さん

画像データを処理する郡司さん

奈良に関する資料や昔の本の装丁に興味があり、特別研究に参加しました。普段入ることのない貴重書庫に入ったり、貴重な資料を扱ったりすることができ、とても面白かったです。

昔の奈良の写真の中には、興福寺の五重塔に登ることができた頃に、塔の上から奈良の景色を撮影したものがあり、歴史を感じました。竹久夢二の著作本は、表紙や挿絵がとてもきれいで、初版本を実際に手に取り、中を見ることができ、得難い経験をしました。

北村コレクション：絵はがき（奈良の風景など）

北村コレクション（北村信昭文庫）

奈良の昔の風景写真、手作り写真機、写真乾板、奈良の文芸同人雑誌、パラオの文物等から成る北村信昭氏（1906~1999）のコレクションは、2000年7月に御遺族より本学に寄贈いただきました。

北村氏は大正末期から昭和の時代に奈良の新聞人・文化人として活躍し、写真家の一面も持つなど多彩な活動をされました。地元紙で文芸欄を担当し、志賀直哉、武者小路実篤など、奈良にゆかりのある文学者たちとも接点がありました。また、民俗学の造詣も深く、パラオで民俗探訪と生態調査を行いました。北村文庫には信昭氏の多彩な活動に関連する蔵書や書簡、新聞記事のスクラップなどが含まれます。

さらに、祖父の太一氏は近代写真業の草分け的な存在であり、猿沢池畔で実家が営む写真館で信昭氏も写真業に従事しました。撮影した写真は、奈良の風景や歴史的著名人の写真、パラオの写真など多岐にわたり、北村文庫には写真に関する資料が含まれます。

竹久夢二著作本（福持文庫）

大正ロマンあふれる作風で知られる画家で詩人の竹久夢二（1884~1934）の著作本を、2003年に元都ホテル（当時）社長で奈良市在住の福持通氏より寄贈いただきました。53点のうち、38点が初版本で、版を重ねていくごとに、時代の流れに沿って装丁を変えるなど、新しい感覚を持って本作りに取り組んでいた夢二の初版本がこれだけまとまって揃うことは珍しいことでした。

竹久夢二　著作本（福持文庫）

■ クローズアップ②令和2年度　奈良大学特別奨学生・学長表彰

奈良大学特別奨学生

奈良大学特別奨学金は、前途有為な人材の育成を目的として、人物・識見及び学業成績ともに優れ、修学意欲がある者に対して給付されます。令和2年度の奈良大学特別奨学生は、下記の通りです。

文学部	国文学科3年（当時）	上田　智穂 さん
		松川　波月 さん
	史学科3年（当時）	吉村　紀弘 さん
		森本　朱音 さん
	地理学科3年（当時）	近藤　樹 さん
		丸山　晃穂 さん
	文化財学科3年（当時）	徳平　千尋 さん
		原　由樹乃 さん
社会学部	心理学科3年（当時）	川島　梢 さん
		梁池　奈未 さん
	総合社会学科3年（当時）	安藤　百音 さん
		桒田　光恒 さん

社会学部心理学科　4年（表彰時3年）　川島　梢 さん

特別奨学生に選ばれてとてもうれしく思います。キャリアAO入試で入学し、学業にブランクがあったため、現役生や大学での学びについていくことができるか不安でした。しかし、自分を奮い立たせて頑張りました。大変な時もたくさんありましたが、今は努力が報われてすごくうれしいです。

高校生の頃に体調を崩し、つらい時期を過ごしたことがありました。その後、社会に出て働く中で、自分のやりたいことを見つめ直し、自分自身の経験から、人の心に寄り添うような、心の手助けができる仕事をしたい、と大学進学を決心しました。

大学では素晴らしい先生方や友人達と出会うことができて、毎日がとても充実しています。特に、新宮一成先生（2021年3月定年退職）という恩師に出会えたことが大きく、臨床心理に関する知識やスキルはもちろんですが、自分自身の心などについて、直接的な答えだけではなく、何気ない会話からも、自分自身で答えに近づけるような気づきをいただいています。

今後は学びを深め、大学院に進学して公認心理師と臨床心理士の資格を取り、ターミナルケアに関わる仕事など、人の心をサポートする仕事に就きたいと考えています。

学長表彰

社会貢献及び課外活動において、表彰に値すると認められた学生個人または学生団体に対し、学長賞を授与します。令和2年度学長表彰は下記の通りです。

●課外活動部門：美術部

さまざまなアートの創作活動や展示会の開催など、美術部としての活動に加え、毎年5月に行われる奈良大学後援会総会の保護者向け展示や令和館内での常設作品展を行うなど、本学の魅力の発信にも貢献しています。特に、2011年より10年間、新入生向け冊子『下宿案内』の表紙絵を担当していることが、評価されました。

令和2年度美術部部長　広澤　沙穂 さん
［文学部史学科　4年（表彰時3年）］

美術部の活動を認めていただいたと感じ、非常に名誉に思います。部員の頑張りが形になり、とてもうれしいです。

課外活動に参加する目的は、もっとうまくなりたい、作品を見てもらいたいなど人それぞれですが、私はまず活動自体を楽しむことと考え、部長として活動を推進していく上で、みんなが楽しめて自分も楽しいと感じることを大切にしました。活動を通して同級生だけでなく先輩、後輩、また他の団体との交流が広がり、いろいろな考えの人に出会い、視野が広がりましたし、充実感を得ることができました。

2020年度はコロナ禍により活動に制限がありましたが、1年間の集大成として後輩を中心に書道部と合同でWEB展示会を行いました。置かれた状況の中で自分たちは何ができるのかを考え、実行し、よい経験になりました。

本学美術部・書道部主催のWeb合同展示会を実施しました！

2021年2月25日（木）～2021年4月30日（金）に美術部と書道部がWeb合同展示会「冬の季語」を開催しました。

展示会では、美術部の学生による作品31点とクロッキー40枚、書道部の学生による作品37点を展示しました。また、写真研究会が美術部、書道部の作品の撮影を担当しました。

「下宿案内」表紙絵作者・令和2年度美術部副部長　柳谷　海来 さん
［文学部国文学科　4年（表彰時3年）］

美術部が下宿案内の表紙を任されるのは非常に光栄なことですし、大学に貢献できてうれしいです。

下宿案内は自分も入学の時にいただいた記憶があり、新入生の心に残るものを描きたいと思いました。表裏どちらにも学生を描き、背景は奈良大生が一度は目にするであろう風景にしました。表紙の背景は興福寺の五重塔です。国文学科の文学散歩で近鉄奈良駅から文豪ゆかりの地を巡った時、猿沢池や東大寺など、奈良の名所を通りました。その時に見た五重塔が強く印象に残り、背景に選びました。裏表紙は近鉄高の原駅で、奈良大生が絶対一度は訪れる場所です。

制作した2020年夏頃は、コロナ禍の、外出自粛の真っ只中で、新入生は実際に大学にも来られず、奈良の名所を訪れることもできなかった時期でした。大学生活を楽しみ、奈良で思い出の場所をたくさん作ってほしいという思いをこめて表紙を描きました。

■ クローズアップ③文学部国文学科　令和2年度特別講義

国文学科 特別講義

国文学科では、令和2年度特別講義として、国文学科の在学生（令和2年度1年生~4年生）を対象に、二つの講義をWEB配信しました。

「三島由紀夫氏が問いかけたこと」

令和2（2020）年の三島由紀夫没後50周年にあたり、三島由紀夫が結成した民間防衛組織「楯の会」に参加していた関河眞克氏を講師にお招きして特別講義を実施しました（2月3日、於・令和館オープンプレゼンスペース）。第1部は関河氏による講演「三島由紀夫氏が問いかけたこと」を開催。第2部では関河氏に加え、進行役の木田隆文教授と光石亜由美教授、さらには学生を交えた座談会を行い、講演の内容をさらに深く掘り下げてゆきました。

なおこの特別講義と座談会は、アクリル板の設置など新型コロナウイルス感染リスク対策を施したうえで、小人数限定で開催し、あわせて3月23日~4月31日に、国文学科の学生を対象にWEB配信しました。

文学部国文学科　木田　隆文 教授（日本近現代文学）

今回の特別講義では、講演者の関河氏がモデルとなった人物が登場する小説、「蘭陵王」の創作経緯や、「楯の会」内部の雰囲気、さらには三島由紀夫の戦後日本に対する思いなど、伝記資料だけでは知ることのできない貴重な証言を数多くお話しいただきました。三島没後50年の節目に、学生はもちろん、文学研究者にとっても貴重な機会を開催できたことを意義深く思っています。

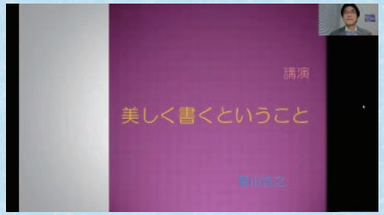
文学部国文学科4年（当時3年）　盆子原　明梨 さん

三島由紀夫の作品「蘭陵王」のモデルになった方から直接お話を聞ける貴重な体験ができました。

自分にとって三島由紀夫は文学者であり、歴史の中の人物でしたが、関河氏の話を聞いて、現実に存在したことを実感し、これまでの捉え方から変化がありました。戦前の日本の良さを大事にしていたことがわかり、どのような点に反映されているかに注目して、作品を読んでみたいと思いました。

関河氏を囲んで行われた座談会

「美しく書くということ」



三宅晶子教授のコーディネートにより、横浜国立大学教授で書道家の青山浩之先生による「美しい文字を書くということ」をテーマにした特別講義を国文学科の学生を対象にWEB配信しました。

文学部国文学科　三宅　晶子 教授（中世日本文学）

特別講義では、青山浩之先生をお招きし、「美しい文字を書くということ」をテーマにお話しいただきました。美しい文字とはどんなものか、何に気をつければ美しいと感じることのできる文字が書けるのかを、わかりやすく教えてくださっています。先生のご指導に従って少し気を付けるだけで、誰でも字が上手になっているという不思議な体験ができます。

「普段字は自分が読めればよいという感じで書いていたのですが、この講義を境に、字を書くのが楽しくなり、丁寧に書くことを続けています。特に字の中にできる空間を均等にすると美しくみえるという話は、美しいモノにはしっかり理由があるのだなと気づけました。」「手首を固定するだけで、字が変わったので、これから意識して字を書くように心掛けたい。」など、多くの学生が美文字に挑戦し、その効果に驚いています。

美文字に挑戦して、作品と感想を提出した学生には、国文学科から素敵な筆ペンが贈られました。

■ クローズアップ④開催報告

奈良大学博物館令和2年度企画展1

なつかしいモノたち

令和3年3月15日~5月15日

企画展「なつかしいモノたち」が、好評のうちに終了しました。

今回は、貴重な文化財ではなく、今から数十年前まではごく普通に使われ、誰もが見たり触ったりしたことのある品々を紹介しました。

街で見かけた赤電話やホーロー看板、当時のお茶の間にあった置き薬の箱や黒電話、大流行したハーフサイズカメラやレコード、国内旅行のお土産の定番だったペナント、またメンコや火薬鉄砲といったなつかしのおもちゃなど約140点と、大阪府吹田市で開催されたアジア初の万国博覧会「大阪万博」のパビリオンの記念品やガイドブック、迷子ワッペンなどの品々約40点を展示しました。

来場者からは、「この看板、見たことがある。」「実家にもペナントが飾ってあった。」など、当時を懐かしむ声が聞かれました。

展示責任者：
文学部文化財学科　魚島　純一 教授
（保存科学）

今回の展示でご覧いただいたなつかしいモノたちは、決して貴重な文化財ではなく、今から数十年前まではごく普通に使われていたモノで、誰もが見たり触ったりしたことのあるものです。

高度経済成長という、社会が大きく変わろうとする時期であったこともあり、次々と新しいモノ、便利なモノが出現し、それまでのモノが取り壊されたり、取って代わられるという時期でもありました。

新しいモノたちは、大量生産・大量消費を前提としてつくられたモノばかりで、これまでのモノのように大切に使うことや保存することを前提にはしていませんでした。

そのため寿命が来て壊れてしまい、本来の役割を果たせなくなったモノたちは、不用品として扱われ、“ガラクタ”と呼ばれ、多くは捨てられる運命にありました。そんな中でも、いくつかの偶然や、時には誰かが残そうとしてくれたおかげで捨てられることを免れたモノたちがいます。

博物館は、モノを通してストーリーを語り、観覧者に伝えるのがひとつの役割です。

いわゆる“文化財”は、それぞれの時代の人々が生きた証であり、私たちは、先人たちの手によって後世に残された“文化財”からその時代のことを知ることができます。

もしも、あのころのモノが、本来の役割を終えてすべて廃棄されてしまったなら、後世の人たちは、私たちが生きてきた“あのころ”をどのようにして知ることができるのでしょう？

今は単なる“ガラクタ”かもしれませんが、なつかしいモノたちは間違いなくあのころのくらしを語る資料であり、ひょっとすると未来の文化財になるかもしれません。

メンコ

赤電話

「大阪万博（1970）」記念品

ドーナツ盤レコード

デザインのうつりかわり

ペナント

なつかしのおもちゃ

1月 January

25日 図書館企画展開催

令和3(2021)年1月25日~4月20日に図書館展示室にて、企画展「図書館資料から見る東アジアの印刷文化」が開催されました。

同展示は、森田憲司名誉教授が企画したものです。「東アジアの文字と出版の文化史」をテーマとして、本阿弥光悦のプロデュースのもと印刷された「光悦本」や奈良絵本『花鳥風月』、「春日版大般若経」など、奈良大学図書館と文学部史学科の所蔵資料約40点が展示されました。

2月 February

18日 四天王像が喜光寺に里帰り

本学所蔵の木造四天王像(持国天・増長天・広目天・多聞天像)が、喜光寺(法相宗別格本山喜光寺　奈良市菅原町)に里帰りするため、文学部文化財学科関根俊一教授と文学研究科文化財史料学専攻の大学院生5人が喜光寺で準備を行いました。

喜光寺では、令和3(2021)年に創建1300年を迎えた記念事業の一環として仏舎利殿が建立され、3月2日の行基會大祭に合わせて、本尊、千仏などの開眼法要が行われました。四天王像も行基會大祭に合わせて里帰りし、7月頃まで喜光寺の仏舎利殿に仮安置される予定です。

3月 March

19日 学位記授与

令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講堂での授与式典は行わず、学科・専攻別に卒業証書・学位記等の授与を行いました。暖かな日差しのもと、540人が、新たな一歩を踏み出しました。

4月 April

2日 入学式

桜の花が咲き誇るなか、令和3(2021)年度入学式を挙行しました。学科に分かれて出席した新入生たちは、映像配信による清水哲郎学長の入学許可宣言と式辞に耳を傾けました。今年度は821人が、奈良大学での新たな一歩を踏み出しました。

保護者の皆さまにおかれましては、卒業式、入学式を楽しみにしておられたことと存じます。新型コロナウイルス感染リスク低減のための入構制限にご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

目標に向かい邁進した大学時代を振り返る

大阪府立福泉高等学校　教諭

岩間　公平 さん　(文学部史学科　2018年3月卒業)

奈良の地での充実した学生生活

歴史を勉強したいという強い思いを日本史の先生に相談して、奈良大学のことを知りました。山梨県から出ることは不安でしたが、知らない土地で自分の力を試してみたいという思いが大きくなり、進学を決めました。奈良大学は規模が大きくないので、学生同士はもちろん、教員と学生の距離もとても近く、アットホームな雰囲気が最大の魅力です。たくさんの人と交流できたことはとてもよい経験となりました。また、多くの史跡に恵まれた奈良で、毎日が発見の連続でした。加えて京阪神へのアクセスがよく、充実した学生生活を送ることができました。

史学科での学び

ゼミでの学びが史学科の一番の魅力だと思います。少人数のゼミで徹底的に討論し、たくさんのことを学び取ることができました。高校までの歴史と違い、史料に直に触れて考えることで、今まで自分になかった視点や多様な考え方を知ることができました。先生方も日本史、東洋史、西洋史のほとんどの時代をカバーされていたので、自分の関心に応じて学びを深めることができました。卒業論文では史学科で4年間学んだことを総動員しました。卒論を完成させたことは、大きな自信に繋がりました。

同じ道を目指す仲間と共に成長

今年私は高等学校の教諭として4年目、担任として3年目を迎えました。昨年度より硬式野球部の副顧問となり、週末も生徒と共に汗を流しています。

教員採用試験の合格は、奈良大学教職学習会での活動があったからこそと思っています。中戸義雄先生のサポートのもと学生で運営するこの学習会は、教育問題に関するディスカッション、模擬授業、教員採用試験対策などを行い、教員を志す学生が共に成長する場です。OBの方々をはじめ現職教員との繋がりがあり、教育実践報告を聞いたり、本音の相談に乗っていただくこともありました。学習会での模擬面接、エントリーシートの批評会、そして何度も繰り返して行った模擬授業によって、私は教員採用試験に自信をもって臨むことができました。

メッセージ

奈良大学は自分のやりたい学問や進路にむかって邁進できる環境があります。私は楽しく充実した大学生活を過ごしました。現在も、奈良大学教職学習会にOBとして参加していますので、教員を目指す皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

■ 創設者・薮内敬治郎先生の命日墓参

学校法人奈良大学の創設者である薮内敬治郎先生の命日にあたる４月21日（水）、浅川正美理事長、本部事務局職員らが薮内先生のお墓参りをしました。薮内先生のご遺徳を偲び、お念仏を称え、お墓に手を合わせました。1981年より毎年、薮内先生のご遺徳を偲んで行われています。

■ 人事

＜4月1日付人事異動は下記の通り＞

●就任▽文学部長／文学研究科長・今津節生（再任）▽社会学部長／社会学研究科長・竹中浩▽博物館長・関根俊一●昇任▽文学部史学科教授・横山香▽社会学部総合社会学科教授・正司哲朗●新任採用▽文学部国文学科教授・古木圭子（共通教育）▽文学部国文学科准教授・鈴木喬（上代文学）▽文学部地理学科准教授・北岡一弘（共通教育）▽文学部地理学科講師・芝田篤紀（自然地理学、地理情報科学）▽文学部文化財学科教授・岡田健（美術史学）▽文学部文化財学科教授・竹田芳則（共通教育）▽文学部文化財学科准教授・杉山智昭（保存科学）▽社会学部心理学科教授・武本一美（精神医学、精神病理学、病跡学）▽社会学部心理学科教授・與久田巌（産業・社会心理学）

＜3月31日付は下記の通り＞

●退職■定年規程第２条による退職▽文学部文化財学科教授・植野浩三■定年規程第３条による退職▽社会学部心理学科教授・新宮一成■依願退職▽文学部国文学科教授・上野誠▽文学部国学科講師・松本大▽文学部地理学科教授・西出公之▽文学部地理学科准教授・藤本悠■契約満了による退職▽文学部文化財学科教授・小山田宏一▽文学部文化財学科教授・嶋田学▽社会学部心理学科講師・宮島健

■ 第15回「全国高校生歴史フォーラム」

本学と奈良県が主催する「全国高校生歴史フォーラム」では、全国の高校生を対象に、地域の歴史や地理、史跡、文化財、文学、人物などに関する研究レポートを募集します。

応募締切は9月2日（木）[当日消印有効]です。審査結果は10月8日（金）に全国高校生歴史フォーラムサイト（奈良大学ホームページ内）等で発表します。詳細は全国高校生歴史フォーラムホームページをご確認ください。お問い合わせは、全国高校生歴史フォーラム実行委員会（奈良大学内 0742-41-9588）まで。

全国高校生歴史フォーラムホームページ
http://www.nara-u.ac.jp/forum/

歴史フォーラム

■ 学年暦および行事予定について

学年暦および行事予定は、奈良大学ホームページでご確認いただけます。

学年暦および行事予定
（奈良大学ホームページ）
http://www.nara-u.ac.jp/life/calendar/

奈良大学ホームページ
http://www.nara-u.ac.jp/

■ 学生生活における相談先

◆総合相談受付：学生支援センター　学生担当

どこに聞いたらよいのか、誰に聞けばわかるのかなど、学生生活で何か困ったことがあれば、気軽に相談してください。

◎場所／A棟（本部棟）2F
◎時間／月～金曜日　8:30 ~ 16:50　　土曜日 8:30 ~ 12:30
※夏期・冬期・春期休業中や試験期間、大学行事等により時間が変更になる場合があります。

◆学生相談室

学生の個人的な悩みや諸問題の解決にできるだけの示唆・助言を与えるため、学生相談室が設けられています。相談相手は、相談室のカウンセラー（臨床心理士）と学生相談員（教員）です。予約方法などの詳細はホームページで確認ください。

◎場所／J棟（総合研究棟）1F
　　サポートルーム（J-104）
　　カウンセリングルーム（J-109）
◎開室時間／月～土曜日 10:00~17:00
　　※祝日を除く
※夏期・冬期・春期休業中は、基本的に閉室しています。

学生相談室（奈良大学ホームページ）
http://www.nara-u.ac.jp/life/counseling/

学生相談室

◆障がい者支援相談体制

学生相談室では障がいや疾患等のある学生が大学で支援・配慮を受けるための申請手続きや、一人ひとりのニーズに応じたサポートを行っています。障がいや疾患等のある学生で、修学上の心配ごと、困りごとなどがありましたら、学生相談室にご連絡ください。学生支援センター 学生担当・教務担当、授業担当教員等と連携しながら支援を行います。

◆医務室

看護職スタッフが在室して、学生の皆さんが心身ともに健やかに学生生活を過ごせるようサポートしています。

構内での病気・ケガの応急処置の他、健康相談、病院の紹介等の助言も行っています。

◎場所／J棟（総合研究棟）1F　J-103
◎開室時間／月～金曜日 9:00～17:00
　　※祝日を除く
　　土曜日 9:00～12:30 ※祝日を除く

医務室（奈良大学ホームページ）
http://www.nara-u.ac.jp/life/dispensary/

医務室

■ 近刊紹介～本学教員の著書～

◆奈良大ブックレット09
『常識を疑う心理学』
社会学部心理学科

社会学部心理学科・教授　井村修 著／
社会学部心理学科・教授　太田仁 著／
社会学部心理学科・教授　林郷子 著／
社会学部心理学科・教授　村上史朗 著／
社会学部心理学科・講師　宮島健　著
ナカニシヤ出版　2021年3月刊行

◆核と放射線の現代史
若尾祐司 編／木戸衛一 編
文学部史学科・教授　高橋博子 共著
昭和堂　2021年3月刊行

◆城郭考古学の冒険
文学部文化財学科・教授　千田嘉博 著
幻冬舎新書　2021年1月刊行

◆飛鳥への招待
飛鳥学冠位叙任試験問題作成委員会 著／今尾文昭 編
文学部文化財学科・准教授　相原嘉之 共著
中央公論新社　2021年3月刊行

◆遺伝子社会学の試み
社会学部総合社会学科・教授　尾上正人 編著／
桜井芳生 編著／赤川学　編著
日本評論社　2021年3月刊行

◆万葉集の基礎知識
上野誠（奈良大学名誉教授）編／
鉄野昌弘 編／村田右富実　編
文学部国文学科・准教授　鈴木喬 分担執筆
KADOKAWA　2021年4月刊行

附属高等学校

学校行事の映像配信

本校の卒業式や入学式は、これまで奈良大学講堂を会場に実施してきましたが、今回はコロナ禍にあって、感染防止に配慮しながら本校体育館にて実施しました。式典会場には、生徒と関係教員のみが入り、来校人数も制限したため、子どもたちの成長を見届けたい御家族のために、会場に数台のカメラを設置し、インターネットによる式典のライブ配信を行いました。初めての試みで、手探りではありましたが、情報部や放送部の教員を中心としたライブ配信チームが中心となって、ライブ配信をしました。来校頂いた保護者の皆様には、受信可能な環境を整えた教室にて、また来校いただけなかった御家族には各御家庭にて動画を見ながら子どもたちの成長を感じていただくという形をとりました。保護者用の教室では、画面に映る子どもたちの姿に時折、小さな歓声を上げたり、カメラを構えたりする姿が見られました。

また、例年であれば、卒業式では吹奏楽部が演奏で卒業生を送り、入学式では２・３年生の有志による合唱で新入生を迎えるところですが、今回は、吹奏楽部や軽音楽部や２・３年生の有志がそれぞれの演奏や歌の音源を組み合わせた動画を作成し、式典会場で披露するという形をとりました。今後も様々な教育活動が制限されることになると予想されますが、教職員は毎日、放課後の消毒活動に勤しむとともに、生徒たちには感染防止に向けての指導を継続しながら知恵を出し、工夫を凝らした学校行事の実施に取り組んでいきたいと考えています。

附属幼稚園

卒園式

３月15日は年長組の子ども達の卒園式でした。

胸にお祝いのリボンをつけてもらい、キラキラと誇らしげな表情の子ども達。スロープの壁面には、入園前の一人ひとりの写真が飾られ、３年間の子ども達の成長に早くも目を潤ませる保護者の姿も見られました。

式では、ピアノに合わせて格好よく入場し、一人ひとり大きな返事をして「ありがとうございます！」と立派に修了証書を受け取ることができました。壇上では凛々しい表情の子ども達ですが、席に戻るとほっとしたように笑顔を見せる姿がとても微笑ましかったです。

幼稚園生活を振り返る「お別れのことば」では、数々の思い出に胸が熱くなり、卒園の歌では、ホールに響く子ども達の歌声に涙を浮かべながら見守られる保護者の皆さまでした。

コロナ禍で制限がある中での卒園式でしたが、晴れやかな表情で卒園を迎えた子ども達。小学校生活でも健やかに成長されますように、願っています。